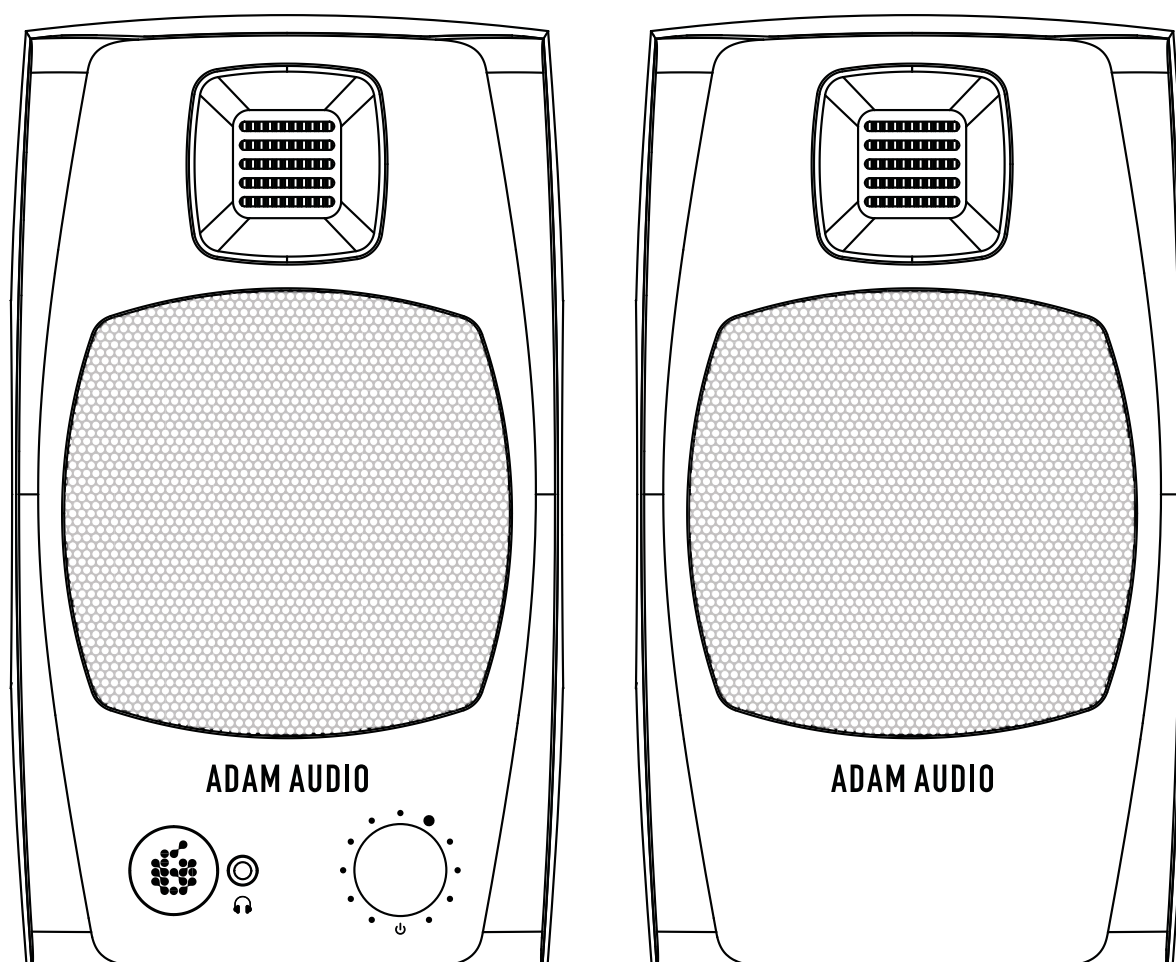


D3V

アクティブ・デスクトップ
モニター・システム



取扱マニュアル

 ADAM AUDIO

ようこそ！

ADAM Audioをお選びいただき誠にありがとうございます。

Adam Audioの情熱が込められた、新しい**D3Vアクティブ・デスクトップ・モニター・システム**をどうぞお楽しみください。

本製品は、厳格な水準の基に設計/製造されており、クリエイティブな業務に長期にわたり安心してお使いいただけます。

D3Vの製品登録はこちらからお願いします:→ www.adam-audio.com/my-adam/

ベルリンより感謝を込めて



Christian Hellinger
Adam Audio代表取締役

目次

1.	安全に関する重要事項	4
2.	同梱物	6
3.	接続	7
a.	電源接続	7
b.	バランス・アナログ・オーディオ接続	8
c.	アンバランス・アナログ・オーディオ接続	9
d.	デジタル・オーディオ接続	10
e.	ヘッドフォン接続	11
4.	設置	12
a.	設置の前に	12
b.	スピーカー設置に関するアドバイス	13
i.	貼り付けパッドの装着	13
ii.	付属の傾斜スタンドの取り付け	14
iii.	底面の3/8インチ・マウント・ポイントを使用する	14
5.	フロント・パネルのロータリー・ノブ & LEDステータス表示	16
a.	ボリューム・レベル	16
b.	二次機能	17
c.	LEDステータス表示	18
6.	ルーム補正EQ	20
7.	その他の手順	21
a.	ファームウェア・アップデート	21
b.	メンテナンス	21
8.	トラブルシューティング	22
9.	輸送	23
10.	規制関連文書	23
11.	アクセサリ	23

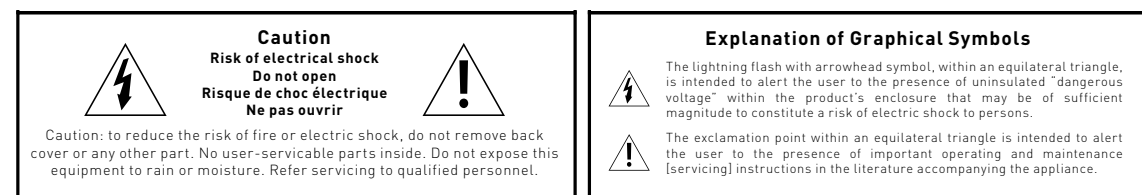
1. 安全に関する重要な

本製品を使用する際は、本マニュアルに記載されている指示に必ず従ってください。

一般

製品をセットアップする前に、以下の安全のための注意事項をお読み下さい。
本マニュアルは大切に保管して下さい。
注意事項をよく読み、指示に従って下さい。

電気仕様



注意：感電の恐れがあるため、ツイーターとウェーブガイドの向きを回転させる場合を除き、スピーカーは分解しないでください（**3.2章参照**）。本体内部には、ユーザーにより修理可能な部品はありません。修理については、必ず有資格の修理業者にお問い合わせ下さい。

本製品および付属の延長コードは、必ず付属品のようなアース線のついた3芯AC電源ケーブルで接続と接地をしてください。感電を避けるため、必ず3芯を差し込んでください。

ヒューズ交換の際は、指定されたアンペア数および形状のヒューズを必ずご使用ください。ヒューズは絶対にバイパスしないでください。

使用する電源の電圧と指定された電圧が一致していることをご確認ください。一致しない場合は、スピーカーを電源に接続しないでください。

ケーブルを接続または切断する際、または本体を清掃する際は、必ずシステム全体の電源を切ってください。

システムの電源を完全に切断するには、本体の電源ソケットから電源ケーブルを抜いてください。スピーカーは電源接続部の近くに設置し、必要なときに電源ケーブルを簡単に取り外せるようにしてくだい。

電源ケーブルを踏んでしまったり、プラグ、ソケット部や本体からケーブルが出ている部分が押し潰された状態にならないようご注意ください。

雷雨が発生した場合、また機器を長時間使用しない場合には電源コードを抜いておくようにしてください。

電気機器は必ずお子様の手の届かない場所に設置してください。

必ず点検済みのケーブルをお使いください。欠陥のあるケーブルを使用すると、スピーカーの故障の原因となります。またハムやクラックリング、その他の様々なノイズの発生源となります。

修理については、必ず有資格の修理業者にお問い合わせ下さい。電源ケーブルやプラグが破損したり、本体に液体をこぼしてしまった場合、また本製品を落下させてしまった場合、雨や湿気にさらしてしまった場合、機器が正常に動作しない場合など、機器が何らかの損傷を受けた場合には修理が必要になります。

取り付けと移動

本体のフロントパネルおよびリアパネルでは、部品の一部が突き出ています。スピーカーを下向きまたは上向きに置かないでください。スピーカーを台車に乗せて運搬する場合は、台車に過度の負荷がかからないようにして、怪我をしてしまうことがないようにご注意ください。

スピーカーを寒い環境から暖かい環境に移動させると、結露が発生する恐れがあります。その場合は結露が蒸発するまで十分に時間を置いてからスピーカーを使用してください。

本製品は、屋内でのみご使用ください。

メーカーの説明書に従って本体を設置してください。

スピーカーは、しっかりとした水平面上またはスタンドに設置してください。

取り付けは適切な技術を有する方のみが行ってください。

製造元が指定する取付具または付属品のみをご使用ください。

十分な冷却効果が得られるよう、壁から10cm以上離して設置し、スピーカーの背後で空気の流れを確保してください。

ラジエーターや温風の吹き出し口、ストーブなどの熱源、または熱を発するその他の機器（アンプを含む）の近くには設置しないでください。

ドライバーの磁石は、磁場を発生させます。ハードディスクや磁気記憶媒体など、磁気に敏感なものはスピーカーに近づけないでください。

液体、薬品、設置環境

本製品を雨や湿気にさらしたり、液体で濡らしたり、直接液体をこぼしたりしないようご注意ください。液体で満たされた物体（花瓶など）をスピーカーの上に置かないでください。

部品の清掃に可燃性または燃焼性の化学薬品は絶対に使用しないでください。

本製品を極端な高温または低温にさらさないでください。

直射日光の当たる場所に設置しないでください。

爆発の恐れのある環境では絶対に使用しないでください。

ろうそくなどの火気を本体に近づけないでください。

海拔2000メートル以下の地域でのみ、安全に使用できます。

非熱帯気候の条件下でのみ、安全に使用できます。

新聞紙やテーブルクロス、カーテンなどで換気口や音響ポートを覆わないでください。

清掃の際は、糸くずの出ない乾いた布のみを使用してください。

健康被害について

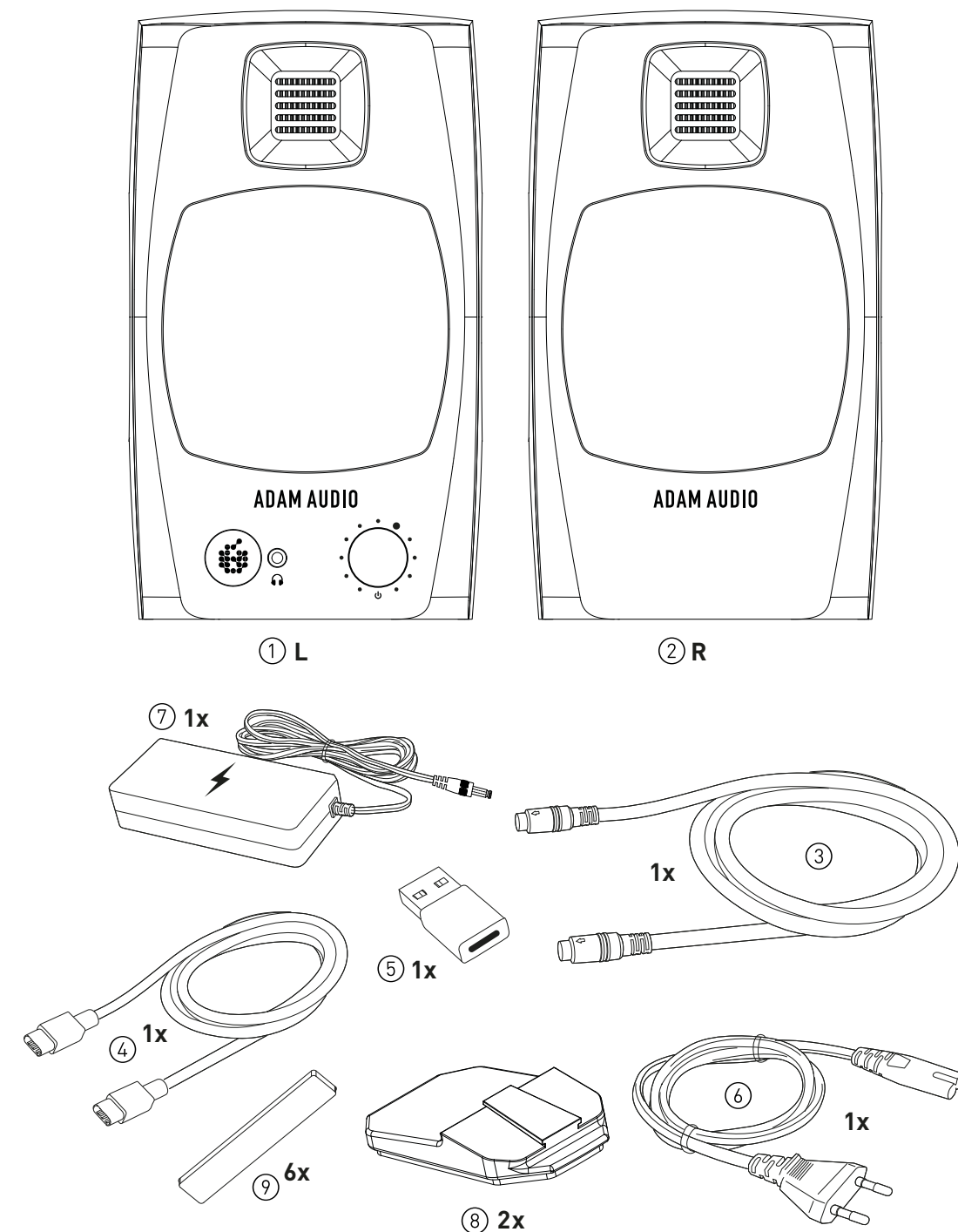
本スピーカーでは、85 dB (A)を超える音圧レベルが発生されます。高い音圧レベルは、聴覚に損傷を与える恐れがあります。音響暴露の影響は時間と信号レベルにより左右され、低レベル信号を長時間モニタリングすると、高レベル信号を短時間モニタリングする場合の音響暴露に相当する恐れがあります。本製品を大音量で使用する際は、スピーカーに近づかないようご注意ください。

本製品は強い磁場を発生します。そのためペースメーカーや植込み型除細動器などに影響を与える恐れがあります。

本製品のツイーターは、折りたたみ式振動板の前面に強力な磁気グリルを備えていますので、ツイーターの近くに金属製の物体や粒子を置くことはお控えください。

ツイーターの振動板に触れたり、大きな粒子（特に金属製）を近づけたりしないでください。

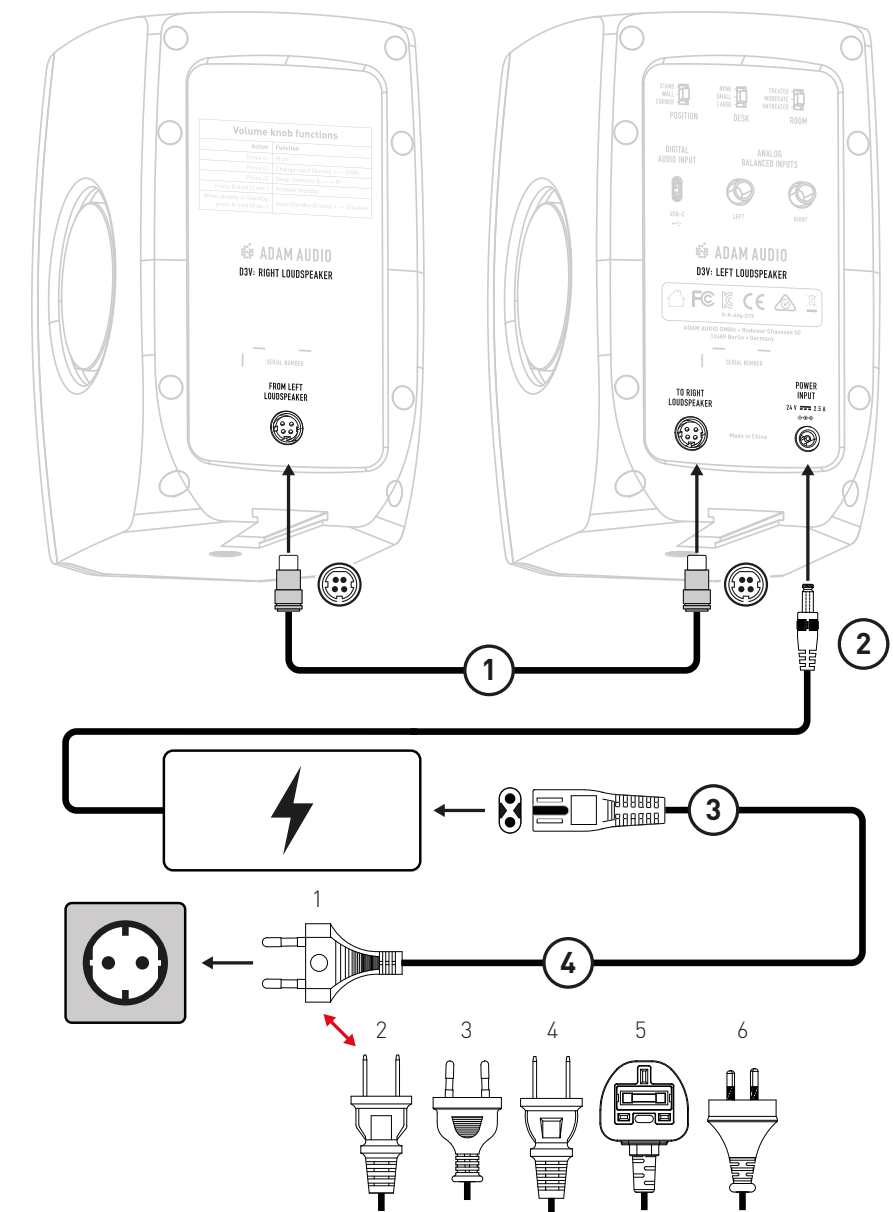
2. 同梱物



- ① 左スピーカー (L) x 1
- ② 右スピーカー (R) x 1
- ③ 左右スピーカー接続用リンク・ケーブル x 1
- ④ USB-C - USB-Cケーブル x 1
- ⑤ USB-C - USB-Aアダプター
- ⑥ 電源ケーブル x 1
- ⑦ 電源アダプター本体 x 1
- ⑧ パッド付きモニター・スタンド x 2
- ⑨ 貼り付けパッド x 6

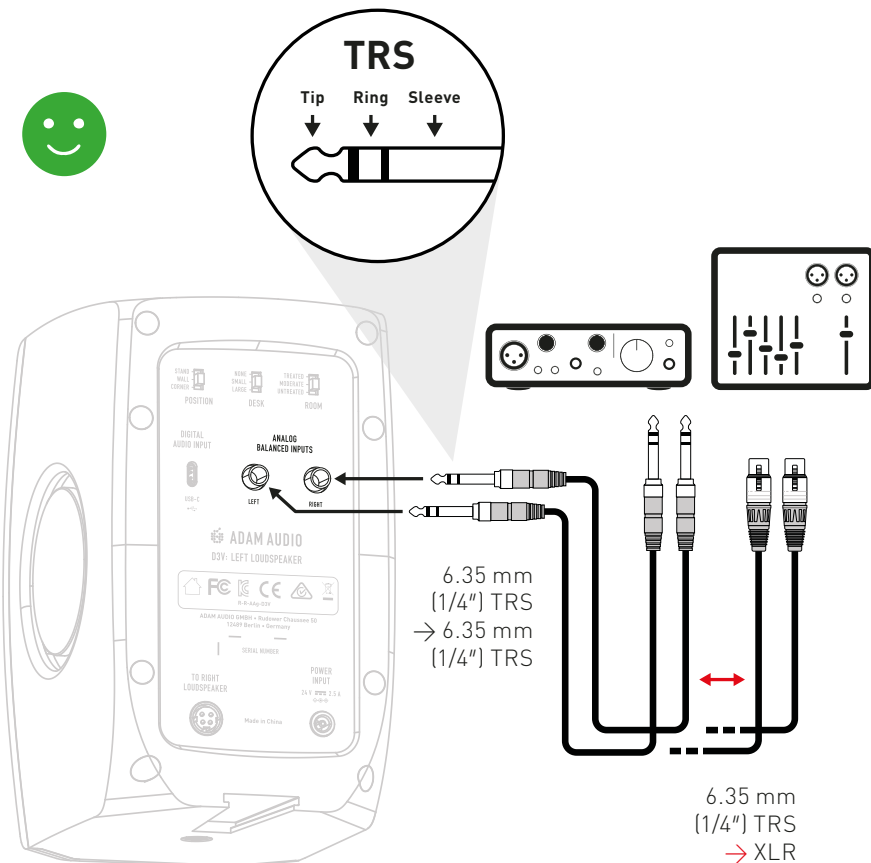
3. 接続

a) 電源接続



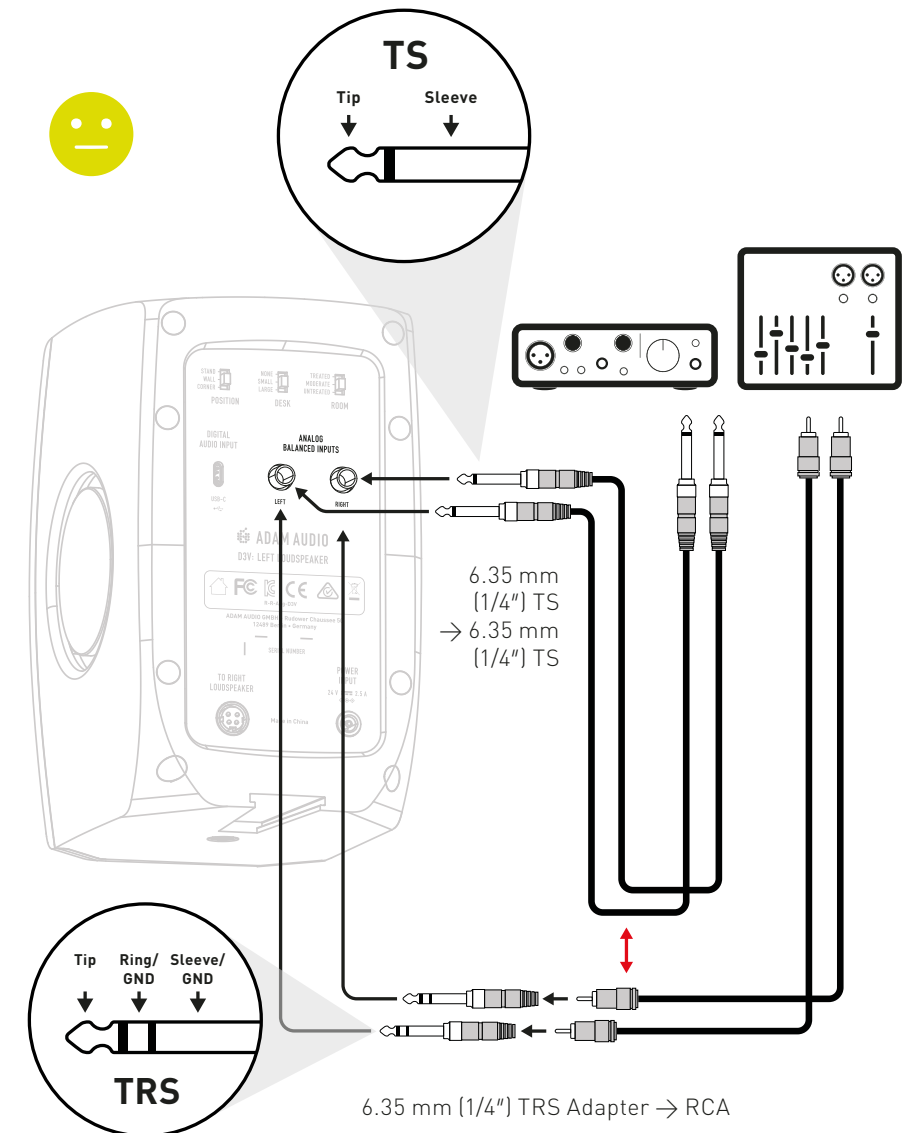
- ① 左右のスピーカーを4芯リンク・ケーブルで接続します。コネクタに記載されている矢印を上に向けた状態で接続してください。正しい向きで挿入すると、プラグを簡単にソケットに挿入できます。プラグは適切な力で差し込んでください。過度な力を加えると、プラグやソケットが損傷する恐れがあります。
- ② 左スピーカーの電源入力に電源プラグを差し込みます。
- ③ 電源ケーブルを電源アダプターに接続します。
- ④ 接続する前に、付属の電源ケーブルが壁の電源コンセントと同じ型であることを確認してください。

b) バランス・オーディオ接続



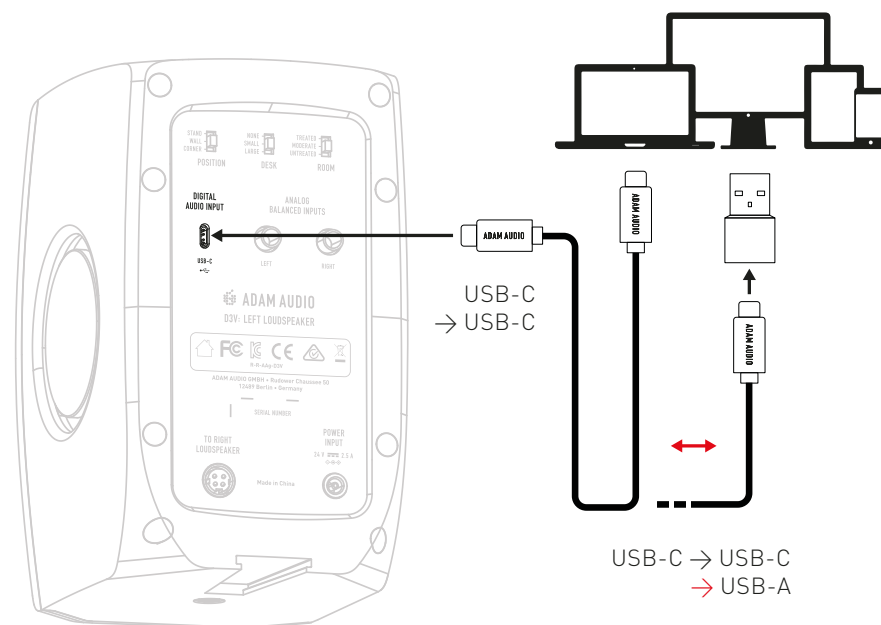
- D3Vやソース機器にオーディオ・ケーブルを接続する際は、事前にソース機器およびD3Vの出力音量を完全に下げてから接続/切断を行ってください。
- ソース機器がバランス・アナログ出力に対応している場合（オーディオ・インターフェースやミキサーなど）は、D3Vとバランス・アナログ接続することをお勧めします。
- ソース機器のマニュアルを参照し、使用する機器のアナログ出力がバランス仕様であるかをご確認ください。
- バランス・オーディオ接続は、ハム・ノイズなど不要な干渉ノイズが混入するリスクを抑えられるという特徴があります。ケーブルが長くなる場合、特に有効です。
- バランス・ケーブルは、TRS - TRSもしくはXLR - TRSケーブルが一般的です。
- バランス接続を行う場合は、すべての配線をバランス伝送する必要があります。そうでない場合はアンバランス接続となります。
- ソース機器から入力されたアナログ・オーディオ信号を再生するには、アナログ入力を選択する必要があります。
→ **詳細は、5章「フロント・パネルのロータリー・ノブおよびLEDステータス表示」をご参照ください。**

c) アンバランス・オーディオ接続



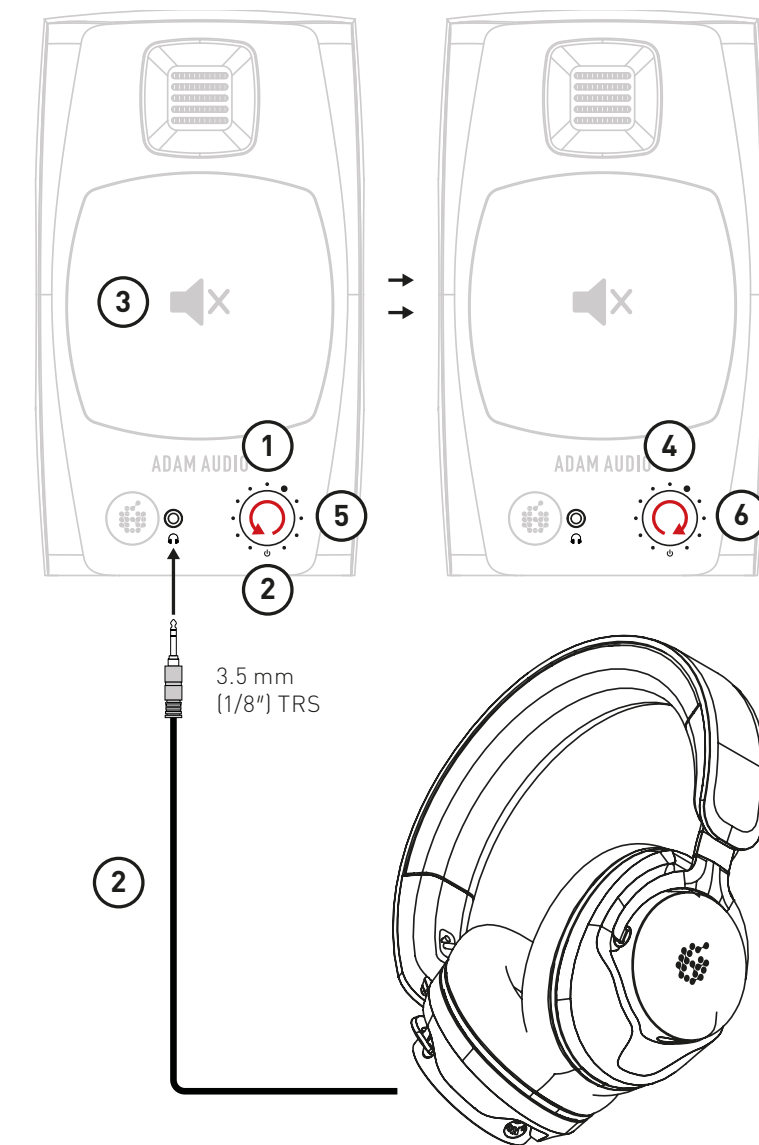
- D3Vやソース機器にオーディオ・ケーブルを接続する際は、ソース機器およびD3Vの出力ボリュームを完全に下げてから接続/切断を行ってください。
- アンバランス・オーディオ接続を行う場合は、短めのケーブルを使うことで、ハム・ノイズなど不要な干渉ノイズの混入のリスクを抑えることができます。
- バランス・ケーブルは、TS - TSもしくはXLR - TSケーブルが一般的です。
- ソース機器の出力がバランスRCA出力の場合は、RCA - TRSアダプター（非付属品）を使用してください。
- ソース機器から入力されたアナログ・オーディオ信号を再生するには、アナログ入力を選択する必要があります。→ **詳細は、5章「フロント・パネルのロータリー・ノブおよびLEDステータス表示」をご参照ください。**

d) デジタル・オーディオ接続



- 付属のUSB-C - USB-Cケーブルで、D3Vの「DIGITAL AUDIO INPUT」とお使いのコンピューターやタブレット、スマートフォンを接続します。
- ソース機器のUSB出力ソケットがUSB-Cタイプでない場合は、付属のUSB-C - USB-Aアダプターをお使いください。
- ソース機器から入力されたデジタル・オーディオ信号を再生するには、D3Vの入力ソースとしてデジタル入力を選択する必要があります。→ **詳細は、5章「フロント・パネルのロータリー・ノブおよびLEDステータス」をご参照ください。**
- お使いの機器のオーディオ出力がD3Vに自動的に切り替わらない場合は、オーディオ設定の出力デバイスを「ADAM Audio D3V」に手動で変更します。

e) ヘッドフォン接続



- ① ヘッドフォンでモニターしたい入力（アナログまたはデジタル）を選択します。
→ **詳細は、5章「フロント・パネルのロータリー・ノブおよびLEDステータス表示」をご参照ください。**
- ② フロント・パネルの3.5 mm (1/8インチ) TRSソケットにヘッドフォンを接続する前に、D3Vのボリューム・ノブを反時計方向に回して出力ボリュームを最小に設定します。
- ③ ヘッドフォンを接続すると、スピーカー・ドライバーからのオーディオ再生が自動的にミュートされ、ヘッドフォン出力のみからオーディオ信号が出力されます。
- ④ ボリューム・ノブを時計方向に回し、好みのボリュームに調整します。
- ⑤ ヘッドフォンからスピーカーにオーディオ出力を再び切り替えるには、ボリューム・ノブを反時計方向に回してD3Vの出力ボリュームを最小に設定してからヘッドフォンを取り外します。
- ⑥ ボリューム・ノブを時計方向に回し、スピーカーの音量を好みの値に調整します。

4. 設置

a) 設置の前に



スピーカーを設置する前に、本マニュアル記載の安全のための注意事項をよくお読みください。

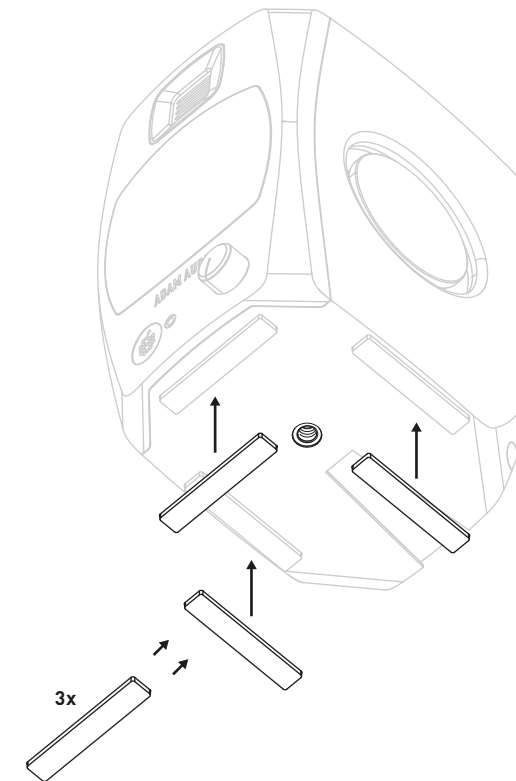
スピーカーを設置する際は、以下の項目を考慮してください。

- 優れたステレオ・イメージを実現するため、壁に対して左右対称の位置にスピーカーを配置してください。
- 優れたステレオ・イメージを実現するため、室内の家具や機材は、左右対称(左/右)に配置してください。
- リスニング・ポジションにおける反射音の影響を抑えるには、室内の反射面に音響的な対策を施す必要があります。
- 隣接した壁面での反射がコムフィルター効果を生み出すため、適切な音響処理を施さない限り、部屋の隅にスピーカーを設置しないでください。また、部屋の音響特性との相互作用によって共鳴が生じてしまう可能性もあります。
- スピーカーは、正面の壁に近づけて設置する必要があります(スピーカー背面から0.3 m以下)。そうでない場合は2 m以上距離を空けて設置してください。これらの距離を守らない場合、強いキャンセリング効果によりリスニング・ポジションで低域が減少する可能性があります。
- 側壁および天井とスピーカーの間には十分に距離がある必要があります(2 m以上)。後壁とリスニング・ポジションの間には、少なくとも2 mの距離を確保してください。低域のキャンセリングを避けるには、4 m以上の距離が理想的です。
- 一般的には、スピーカーとリスニング・ポジションから壁が離れるほど、音質は向上します。

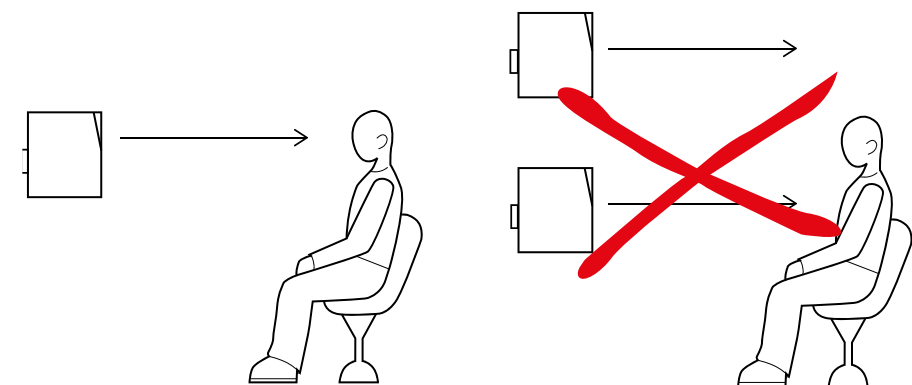
b) スピーカー設置に関するアドバイス

i) 貼り付けパッドの装着

- D3Vを机や棚に直接設置する場合は、付属の貼り付けパッドを下図の様に各キャビネットの底面に3枚ずつ貼り付けます。

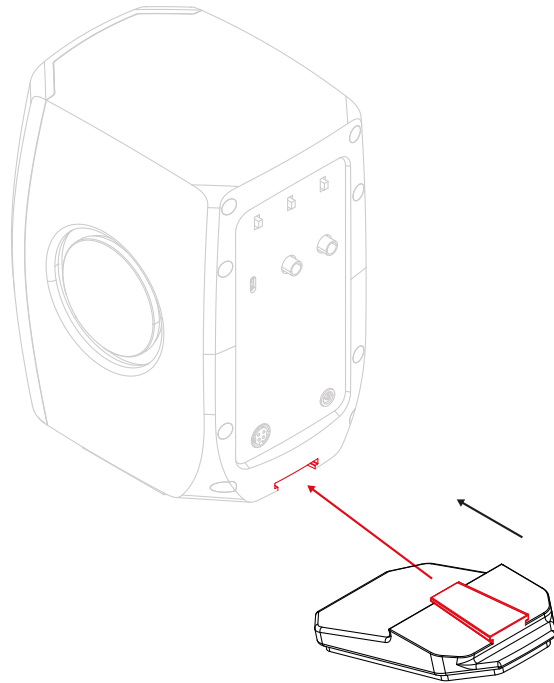


- パッドを貼り付けることで、設置面とスピーカーが直接接触しなくなり、傷などを防止できます。滑り止め防止効果もあり、スピーカーを安定して設置することができます。
- 音響軸が耳に合うように、耳の高さにスピーカーを設置します。



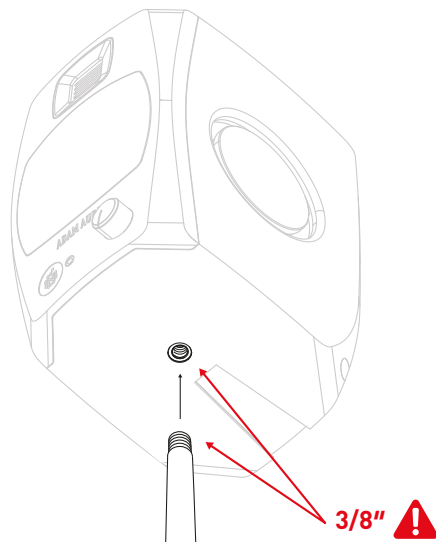
ii) 付属の傾斜スタンドの取り付け

- 付属の傾斜スタンドを使うと、音響軸を耳に向けて15度上方に傾けることができます。
- 傾斜スタンドの突起部をD3Vのキャビネットにある溝に合わせて背面パネル側から差し込みます。2台のスピーカーに傾斜スタンドを装着し、机などの平らな面に配置します。

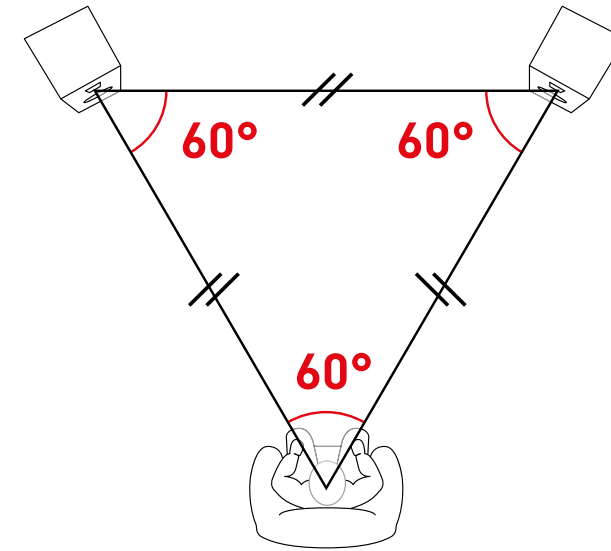


iii) 底面の3/8インチ・マウント・ポイントを使用する

- キャビネット底面の3/8インチ・マウント・ポイントを使用すると、D3Vを3/8インチ径のマイク・スタンドに取り付けることができます。スピーカーを適切な高さに設置することができ、設置面での反射を抑えることができます。これにより周波数特性や直線性が向上し、音質を向上させることができます。変換アダプター（非付属品）を使用することで、5/8インチ径のマイク・スタンドに取り付けることも可能です。



- スタンドのタイプに関わらず、2チャンネルのステレオ再生の場合、頭部と2台のスピーカーが正三角形となるように各スピーカーとリスニング・ポジションを設定する必要があります。



5. フロント・パネルのロータリー・ノブおよびLEDステータス表示

a) ボリューム・レベル

- 左スピーカーのフロント・パネルにはD3Vのボリューム・ノブが搭載されています。ノブを押して選択する機能も備え、二次的な操作が可能です。
- ノブを時計方向に回すとボリュームが増加し、反時計方向に回すとボリュームが減少します。
- D3Vのボリュームをコントロールするには、2つの方法があります。好みや使用環境に応じて選択してください。

1) D3Vでボリュームを調整する場合

- ソース機器の出力ボリュームを完全にオフにします。
- D3Vのボリューム・ノブを時計方向に回し、音量を最大に設定します。
- 低域成分を多く含む大音量の素材（ダンス・ミュージックやアクション映画など）を再生します。
- フロント・パネルのADAM Audioロゴが赤く点滅（リミッターが動作）するまでソース機器のボリュームをゆっくりと上げます。
- 耳を保護するため、直ちに再生を停止してください。
- これで設定は完了です。D3Vのボリューム・ノブのすべての範囲を使用してスピーカーの音量を調整できます。ソース機器の音量を変更した場合は、上述の手順を繰り返してボリューム・ノブを再設定してください。

2) ソース機器でボリュームを調整する場合

- D3Vのボリューム・ノブを反時計方向に回し、音量を最小に設定します。
- ソース機器の出力ボリュームを最大に設定します。
- 低域成分を多く含む音量の大きな素材を再生します。
- フロント・パネルのADAM Audioロゴが赤く点滅（リミッターが動作）するまでD3Vのボリュームをゆっくりと上げます。
- 耳を保護するため、直ちに再生を停止します。
- これで設定は完了です。ソース機器のすべてのボリューム範囲を使用してスピーカーの音量を調整できます。D3Vのボリューム・ノブを変更した場合は、上述の手順を繰り返してソース機器のレベルを再設定してください。

b) 二次機能

→ フロント・パネルのノブを押すことで、様々な機能を利用できます。

- 1) 1回押すと、スピーカーがミュートされ、もう1回押すとミュートが解除されます
- 2) 2回押すと、アナログ入力とデジタル入力が切り替わります
- 3) 3回押すと、左右のチャンネルが入れ替わり、スピーカーのステレオ・イメージが反転します。この機能を使うことで、左右のスピーカーを逆の配置で使うことができます。ボリューム・ノブの操作やヘッドフォン出力、オーディオ接続を右側のスピーカーで行いたい場合などに便利です。
* 左スピーカーがLRどちらのチャンネルに設定されているかを確認するには、アナログ・ケーブルを左チャンネル入力のみに接続してください。デジタル接続の場合は、USB-Cケーブルから左チャンネル信号のみを出力します。
- 4) 右スピーカーの背面パネルには、これらの機能の一覧が表で記載されています。

→ スタンバイ・モード：

ボリューム・ノブを2秒間長押しすると、スタンバイ・モードを手動で有効にできます。もう一度長押しすると、D3Vは通常の動作モードに復帰します。20分間何も信号が入力されないと、D3Vは自動的にスタンバイ・モードに入ります。フロント・パネルのボリューム・ノブを一度押すと、スタンバイ・モードが解除されます。スタンバイ・モードが有効にならない場合は、D3Vに可聴範囲外の低周波/高周波信号が入力されている可能性があります。ソース機器からの入力ケーブルを抜いてから再度試してみてください。

→ 自動スタンバイ・モード機能のオン／オフ



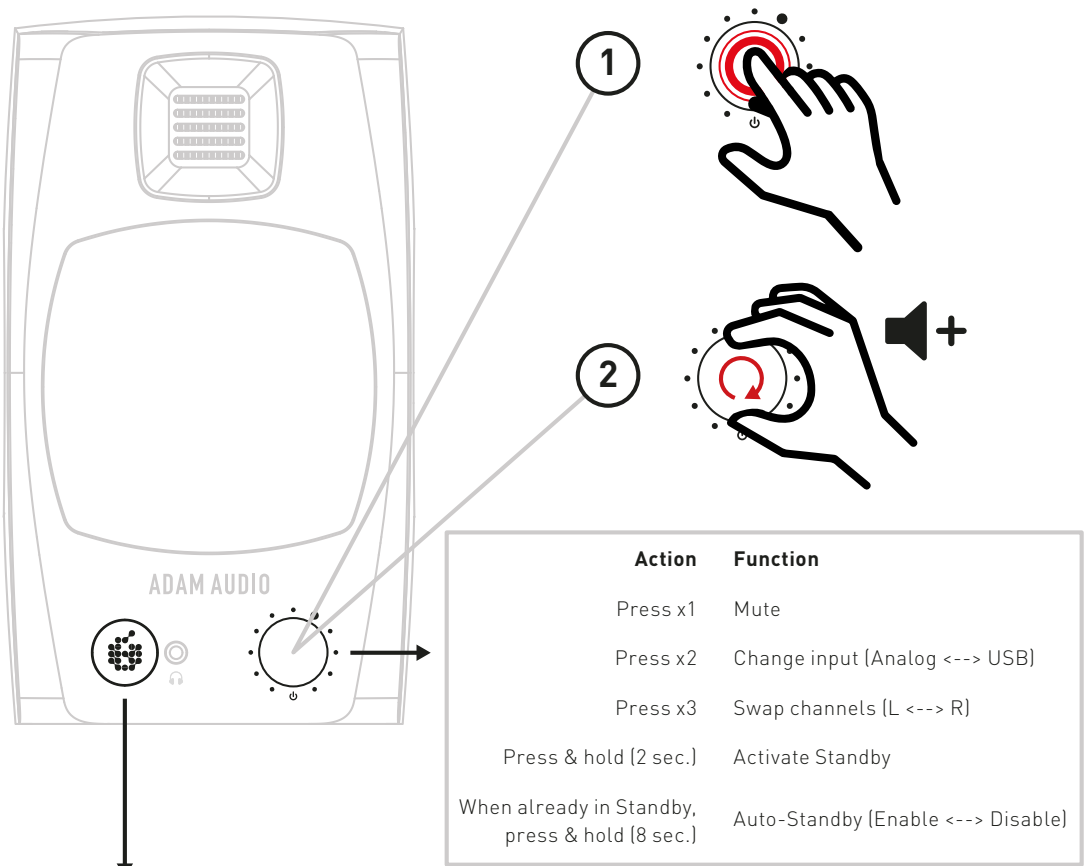
自動スタンバイ・モード機能を無効にすると、D3Vの消費電力が増加します。ご注意ください。

自動スタンバイ・モード機能（一定時間信号が入力されないと自動的にスタンバイ・モードに切り替わる機能）は、無効にすることも可能です。無効にするには、最初にD3Vを手動でスタンバイ・モードに切り替える必要があります。D3Vの電源をオンにし、デジタル入力またはアナログ入力を選択した状態で、ボリューム・ノブを2秒間押し続けると、LEDが赤く点滅した後消灯します。これでD3Vがスタンバイ・モードに切り替わりました。LEDがオフになったのを確認し、次にボリューム・ノブを8秒間押し続けます。LEDが赤色に5回素早く点滅し、自動スタンバイ・モード機能がオフになったことを示します。上記と同じ操作を繰り返すことで、自動スタンバイ・モード機能を再び有効にできます。有効になる場合はLEDが緑色に5回素早く点滅し、自動スタンバイ・モード機能がオンになったことを示します。

c) LEDステータス表示

→ 左スピーカーのフロント・パネルにあるADAM Audioロゴは、色や点灯の仕方でD3Vの様々なステータスを表示します。

- 1) 赤色の点灯:スピーカーが起動中またはシャットダウン中
- 2) 赤色の点滅:左右いずれかのスピーカーでリミッターが動作したことを示します。これはボリュームが最大値に達し、リミッターがスピーカーを故障から保護していることを意味します。D3Vのボリューム・ノブでスピーカーの音量を下げるか、ソース機器側で出力ボリュームを下げてください。
- 3) 緑色に点灯:D3Vに電源が投入され、TRSまたはTSケーブルからのアナログ入力でオーディオが再生できる状態であることを示します。
- 4) 青緑色に点灯:D3Vに電源が投入され、USB-C接続からのデジタル入力でオーディオが再生できる状態であることを示します。
- 5) オレンジ色にパルス点灯: スピーカーがミュートされていることを示します。
- 6) オレンジ色に3回点滅:左右チャンネルが反転したことを示します。
- 7) 紫色にパルス点灯:D3Vのファームウェア・アップデートが実行中であることを示します (7章参照)
- 8) 緑色に3回点滅:ファームウェア・アップデートが成功したことを示します (7章「ファームウェア・アップデート」参照)
- 9) 赤色に5回素早く点滅:スタンバイ・モードが無効化されたことを示します
- 10) 緑色に5回素早く点滅:スタンバイ・モードが再び有効化されたことを示します



Action	Function
Press x1	Mute
Press x2	Change input (Analog <--> USB)
Press x3	Swap channels (L <--> R)
Press & hold (2 sec.)	Activate Standby
When already in Standby, press & hold (8 sec.)	Auto-Standby (Enable <--> Disable)

Color	LED state	Function	
	Red	Flashing	Booting up / Shutting down
	Red	Flashing	Limiter active
	Green	Solid	Power on and analog input (TRS/TS) active
	Cyan	Solid	Power on and digital input (USB-C) active
	Orange	Pulsing	Muted
	Orange	Flashing 3x	Left & right channel swap
	Purple	Pulsing	Firmware upgrade in process
	Green	Flashing 3x	Firmware upgrade successful
	Red	Flashing 5x	Standby function disabled
	Green	Flashing 5x	Standby function enabled

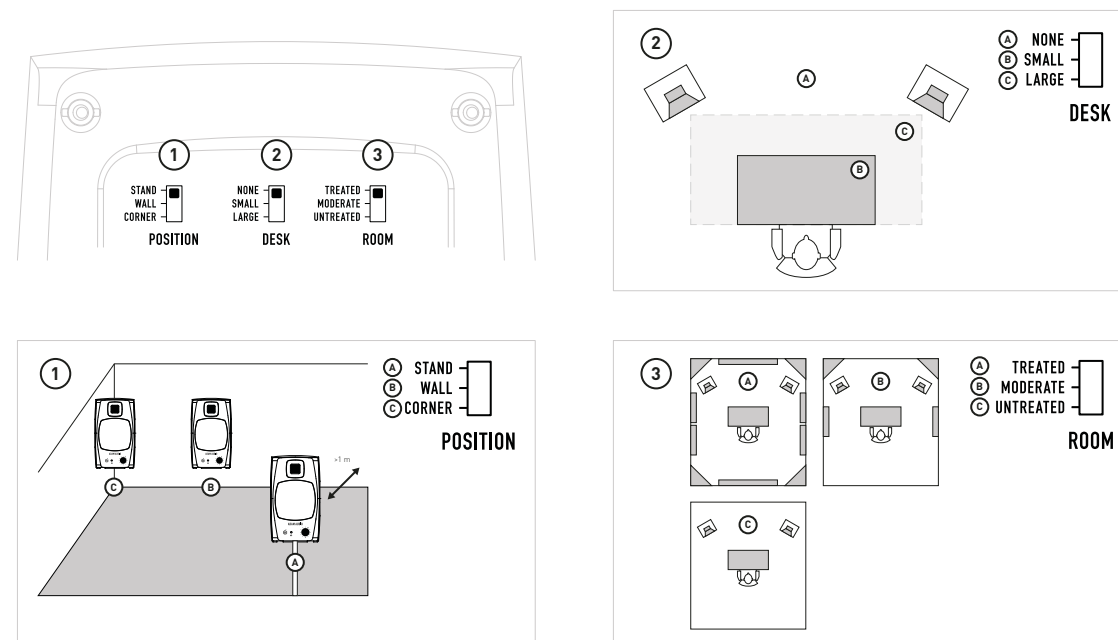
6. ルーム補正EQ

リスニング・ポジションでの音響体験は、以下の項目が大きく影響します。

- ① 室内におけるスピーカーの位置。
- ② 机のサイズ。
- ③ 吸音材や遮音材で室内音響がどのように処理されているか。

左スピーカーの背面パネルにあるルーム補正EQを使うと、お使いの環境に合わせてD3Vの周波数特性を調整できます。

スピーカーの設置位置と室内音響を最も該当する項目にスイッチを切り替えることで、可能な限り最高のオーディオ再生を実現できます。



7. その他の手順

a) ファームウェア・アップデート



重要:ファームウェア・アップデート実行中は、D3Vやコンピューターの電源ケーブルやUSBケーブルを抜かないでください。

ファームウェア・アップデートを行うことで、D3Vの機能性を改善/強化し、最新の状態に保つことができます。

ファームウェア・アップデートの準備:

- D3Vに電源アダプターが接続されていることを確認します。このとき電源ケーブルをコンセントに接続しないでください。
- USB-C - USB-CケーブルでコンピューターとD3Vを接続します。必要に応じてUSB-C - USB-A変換アダプターを使用することもできます。
- D3Vの製品登録後、以下のURLから「D3V Firmware updater」をダウンロードします：
www.adam-audio.com/my-adam/
- 起動中のすべてのアプリケーションを終了し、すべてのウィンドウを閉じます。
- 「D3V Firmware updater」を起動します。

ファームウェア・アップデートの実行:

- フロント・パネルのボリューム・ノブを 次の手順を行う間押し続けます。
- ボリューム・ノブを押しながら電源アダプターに接続された電源ケーブルを電源コンセントに接続します。
- ボリューム・ノブを押し続けると、D3Vがファームウェア・アップデート・モードで起動し、フロント・パネルのADAM Audioロゴが紫色にパルス点滅します。この時点でボリューム・ノブから手を離しても構いません。
- ファームウェア・アップデートが利用可能な場合、「D3V Firmware updater」がファームウェアのアップデートを提案します。
- アップデートをインストールします。
- ファームウェアのアップデートが完了すると、ADAM Audioのロゴが緑色に3回点滅した後、D3Vが自動的に再起動します。

b) メンテナンス

- 本体を清掃する際は、スピーカーの電源をオフにし、ACアダプターを抜いた状態で行ってください。
- スピーカーの清掃には液体を使用しないでください。
- キャビネットの清掃には、乾いた不織布のみを使用してください。
- ドライバーやパッシブ・ラジエーターには触れないでください。

8. トラブルシューティング

信号の損失、不要な干渉やノイズなど、製品に不具合が発生した場合は、ADAM Audioまたは販売代理店に連絡する前に、以下のチェック項目をご確認ください。

スピーカーから音が再生されない、または歪んだ音声再生される。

- ボリューム・ノブを2回押して、正しい入力信号が選択されているかを確認します。フロント・パネルのボリューム・ノブおよび/またはソース機器の出力レベルを調整して音声が聴こえるかを確認します。
- 問題の原因を考察してみましょう。システム内のすべてのスピーカーで同じ信号トラブル（音が出ない、歪んでいるなど）が生じている場合、ソース機器からの信号自体に問題がある可能性が考えられます。片方のスピーカーのみで信号トラブルが生じている場合は、スピーカー本体またはシグナル・チェーン内のケーブルに問題がある可能性があります。
- 信号ソースを確認してみましょう。可能な限りスピーカーに直接ソース機器を接続してください。シグナル・チェーン内の他の機器（ミキサーやプロセッサーなど）に問題がある可能性を検討してください。
- 配線、ケーブルを確認し、必要であれば他のケーブルと交換して問題が再現されるかどうかを確認します。片方のスピーカー（LまたはR）のみにオーディオ・ケーブルを接続した状態でD3Vの左右チャンネル反転機能を有効にし、信号トラブルが反対のスピーカーで再現されるかを確認してください。反対のスピーカーでも確認できた場合、問題はオーディオ・ソース側にある可能性が高いことになります。USB-Cデジタル接続を使用中は、コンピューターで適切な出力デバイスが選択されているかを確認します。

スピーカーから音声は出力されるが、ハムやクラックルなど不要なノイズが聴こえる：

- 配線、ケーブルを確認し、必要であれば他のケーブルと交換して問題が再現されるかどうかを確認します。片方のスピーカー（LまたはR）のみにオーディオ・ケーブルを接続した状態で、D3Vの左右チャンネル反転機能を有効にし、信号トラブルが反対のスピーカーでも再現できるかを確認してください。反対のスピーカーでも確認できた場合、問題はオーディオ・ソース側にある可能性が高いことになります。
- スマートフォンや無線ルーター、電源アダプター、電子モーター、ヒーターなど、問題を原因となり得る電磁波による干渉源がスピーカーの近くにあるかどうかを確認します。

上記のいずれも該当せず、問題の原因が特定できない場合は、スピーカーの修理が必要な可能性があります。その場合は、ADAM Audioまたは販売代理店にお問い合わせください。
[お問い合わせ先のリストは、→ www.adam-audio.com をご参照ください]

9. 輸送の際の注意

スピーカーを輸送する場合に備え、製品の梱包箱は捨てずに保管しておいてください。元の梱包箱がない場合、ヘッドフォンを損傷せずに発送することは非常に困難となります。**ADAM Audioは、不適切な梱包による輸送によって生じた損傷に対し一切の責任を負いかねます。**

10. 規制関連文書

型式認証書、適合宣言書、および環境に関する声明は、ADAM Audio D3V製品ページでご確認いただけます。→ www.adam-audio.com

11. アクセサリー

使用可能なアクセサリーについては、ADAM Audio Aシリーズ製品ページをご参照ください。
→ www.adam-audio.com

注記

ADAM AUDIO GMBH
BERLIN, GERMANY

T +49 30-863 00 97-0
F +49 30-863 00 97-7

INFO@ADAM-AUDIO.COM
WWW.ADAM-AUDIO.COM

D3Vマニュアル © ADAM Audio GmbH 2025

本書に記載される情報に誤りが無いよう万全を期しておりますが、ADAM Audio GmbHは内容の誤りや
欠落についての責任を負いかねます。
すべての仕様は予告なしに変更されることがあります。

